

豊中市 toyonaka

みらい創造都市とよなか
～明日がもっと楽しみなまち～



庄内地域に豊中市初の義務教育学校(2校)が開校します。

「つながる力」「まなぶ力」「つくる力」を基本として、やり抜くことで世界にはばたいていく子どもを育みます。令和5年(2023年)4月に(仮称)庄内さくら学園、令和8年(2026年)に(仮称)南校が開校予定です。

教職員の働き方改革を推進

令和3年度(2021年度)にスクールサポートスタッフを市立学校全校に配置、勤務時間外の留守番電話対応、保護者向け一斉メール機能の導入、携帯電話の配備、学校行事の精選、定時退勤日の設定、学校閉庁日の導入等の取組を行い働きやすい職場環境づくりに努めています。

ICTを活用した「学び」の推進

GIGAスクール構想を推進するため、児童生徒用一人一台タブレットに加え、教員用タブレットの整備を進めるとともに、ICT支援員の配置の拡充を行っています。

「マチカネ先生塾」及び教員サポートシステム

教員をめざす学生には「マチカネ先生塾」で、経験の浅い教員には、経験豊富な教職員育成支援指導員が授業力のサポートを行っています。



「空港のある中核都市 豊中」/
世代と空間を超えた人との
つながり

大学との連携～サウンドスクール事業～

大阪音楽大学との連携により「音楽が溢れる学校づくり」をすすめ、子どもたちが「生きた本物の音楽」に触れる教育を推進しています。

多文化共生

帰国・渡日や外国にルーツを持つ児童・生徒に対する様々な学習支援や居場所づくり等支援施策に取り組むとともに、互いに認め合い、尊重し合い、共に生きる多文化共生の視点での学びを進めています。また、ユネスコ・スクール参加校等は国内外の学校との協働授業に取り組んでいます。

池田市 ikeda

教育で人々が『つながる！』
まち、池田



～年齢・校種を越えて「つながる！」～

小中一貫教育の推進

中学校区を「〇〇学園」と呼称し、幼稚園などの就学前から義務教育9年間を見通した小中一貫教育を推進しています。校種を越えた異学年交流も盛んで、児童・生徒はもちろん、校種の違う教員同士もつながることができま。また、義務教育学校「ほそごう学園」では、1～9年生が学校生活を共にしています。

ICTの活用

全小・中・義務教育学校の各教室に電子黒板を整備し、児童生徒一人一台タブレット端末を導入。教員にもタブレット端末を貸与しており、授業や校務で活用しています。教員同士での活用法の研究も日々行われています。



外国語教育の推進

小・義務教育学校に英語リーダー教員を配置し、1年生から6年生までの系統的な英語の指導を実践しています。また、教員を対象に、姉妹都市ローンセトン市(オーストラリア)への語学研修を実施しています。

支援教育体制の充実

幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校に通級指導教室を開設しています。

～学校の枠を越え、
地域と「つながる！」

地域社会との連携

学校、地域、家庭が協働し、子どもたちがいきいき活動できる「教育コミュニティづくり」を推進しています。また、公設民営の塾「ふくまるはばたき塾」では、子どもたちの家庭学習や自習のサポートを行っています。



ふくまる教志塾で人材の育成

池田の教員を目指す方に向けて、「ふくまる教志塾」を開塾し、「現場実習」と「セミナー」の二本柱で、教員としての資質・能力を育成しています。



とよの 大阪府豊能地区とは

大阪府豊能地区は、大阪国際空港やJR新大阪駅に近接する成熟した都市部と、季節ごとにさまざまな表情を見せる魅力的な自然を併せ持つ、大阪府の北西に位置します。

豊能地区3市2町(豊中市・池田市・箕面市・豊能町・能勢町)は、政令指定都市以外では全国で初めてとなる、市・町による教員採用選考を実施しており、毎年全国各地から多くの方に志愿いただいております。



選考職種 小学校教諭・中学校教諭・養護教諭・栄養教諭

出願期間 令和4年(2022年)4月1日(金)～4月28日(木)

出願先 インターネットによる出願: <https://toyono-jinjikyo.com/>

※詳しくは「令和5年度(2023年度)大阪府豊能地区公立学校教員採用選考テスト受験案内」をご覧ください。

能勢町 nose

自分が好き 能勢が好き
仲間と共に 夢がいっぱい



義務教育学校へ

令和4年4月、町内の1小学校・1中学校が、義務教育学校へ。
9年間の学び・生活を効果的につないでいきます。

学力向上サポート

ICTの活用推進、英語教育の充実(英語4技能テスト【5～9年】など)、能勢町学力テスト、能勢分校との連携など、様々な機会を設け、確かな学力の定着をめざしています。

子どもの安心サポート

福祉との連携、SC・SSW等の多職種で構成するチーム学校、コミュニティ・スクールの取組、支援教育の充実、通級指導教室の開設など、学校×地域×行政で一人ひとりの子どもを大切にする教育を進めています。

働きやすい環境

豊かな自然に囲まれ素直で元気な子どもたち、学校と協働する地域・保護者、あたたかい教職員集団、広々として充実した学校施設。小さな町ならではの充実した教育環境のもと、熱い「夢」を持つ子どもたちを育成しています。

体力向上サポート

大学と連携し、授業支援・体力向上プログラムやイベントを実施し、元気でたくましい子どもの育成に努めています。



箕面市 minoh

子どもたちの豊かな学力を
育む、最新の教育環境



ICTを活用した授業・保護者との連絡

箕面市では、全児童生徒に配備された1人1台のタブレット端末を使い、一人ひとりの課題に応じたドリルに取り組むなどして個別最適化された学習を進めています。また、学習支援ソフト「tomoLinks」を活用し、オンライン上でのプリント配布や回収を行うことが可能です。デジタル連絡帳を活用することで、児童生徒端末のみならず保護者のスマートフォンにも反映され、正確に迅速に連絡事項を伝えることができ、教員と保護者の負担を軽減しています。



教員を孤立させない学校組織体制

様々な教育課題に対して、学校が組織として状況に応じた適切な対応を取っていく必要があります。指導力のある教員が、生徒指導や保護者対応、教材研究などに専念できるよう市独自の教員を配置しています。

「箕面の授業の基本」で指導のスタイルを確立

箕面版・授業の手引きを活用することで、すべての先生が子ども主体の課題解決型授業を展開しています。

英語教育の推進

箕面市では、小学校1年生から毎日、英語の学習に取り組み、早い時期から英語に慣れることができます。小中学校各校に外国人英語指導助手を3～7人配置しています。

豊能町 toyono

「豊かな自然」と「豊かな人材」を
活かし「豊かな子ども」を育てる



＜めざす子ども像＞「豊能町に誇りを持ち、
自信を持って社会を生き抜く子ども」



地域とともにある義務教育学校の設立

令和8年に東西それぞれに義務教育学校を設立します。先行して、令和4年4月より東地区に施設分離型の小中一貫教育校、「東能勢小中学校」を開校します。前期学部(1～4年)は、小学校校舎で生活し、基礎基本を身につけるとともに自然いっぱいのフィールドを活かした体験学習を取り入れます。子どもたちの心身の発達の早期化を考慮し、小学5・6年生は、中期学部(5～7年)として中学校校舎で生活し、一部教科担任制を導入します。これまでの小学校、中学校と分けて考えるのではなく小学校と中学校のいいところを合わせたハイブリッド型の新しい学校をつくりま。

また、2年の準備期間を経て、令和4年度からコミュニティ・スクールを導入し、学校・保護者・地域が連携・協働し「地域とともにある学校づくり」を推進します。

保幼小中一貫教育の推進

中学校区でめざす子どもの姿を設定し、就学前から義務教育9年間を合わせた15年間をつなぐ保幼小中一貫教育を推進しています。校種を越えた子ども同士の交流や、保幼小中の教職員の合同研修会など、子どもたちも教職員もつながることができる取組を実施しています。小さい町のよさを生かし、町の子どもたちをみんなで責任をもって育てていきます。



川遊び(余野川)



算数乗りいれ授業(東能勢小)

豊能のよさを育む地域学習「とよの未来科」の創設

「地域とともにある学校づくり」を進めていく上で、今までも地域の方を講師に、地域のことをたくさん学んできましたが、豊能町でしか学べない特別な学習として『とよの未来科』を創設し、豊能町のよさを学んだ子ども達自身が豊能町の魅力を発信する取組を行っています。